

平成 22 年 6 月 9 日現在

研究種目：基盤研究 (B)
 研究期間：2007 ～ 2009
 課題番号：19320043
 研究課題名 (和文) ブロニスワフ・ピウスツキの評伝執筆のための実証的研究
 研究課題名 (英文) The Positive Study for the Writing of “A Critical Biography of Bronislaw Pilsudski”

研究代表者

澤田 和彦 (SAWADA KAZUHIKO)

埼玉大学・教養学部・教授

研究者番号：70162542

研究成果の概要 (和文)：ブロニスワフ・ピウスツキはリトアニアに生まれたポーランド人である。彼はペテルブルグ大学在学中にロシアのツァーリ・アレクサンドル三世暗殺未遂事件に連座し、サハリン島へ流刑となった。この地でピウスツキは原住民ギリヤークやアイヌの民族学的調査を行い、民族学者となった。本研究では、日本、ポーランド、ロシア、リトアニアの研究者計 13 人の共同執筆によりピウスツキの評伝を完成した。また 3 冊のピウスツキ資料集を刊行した。

研究成果の概要 (英文)：Bronislaw Pilsudski is a Polish born in Lithuania. When he was a student at St.-Petersburg University, he was involved in the attempt to assassinate the Russian tsar Alexander III. But the attempt ended in failure, Pilsudski was arrested and sentenced to an exile to the Sakhalin Island. In the island he made an ethnographical researches on such aborigines as Gilyak and Ainu. In cooperation with thirteen researchers from Japan, Poland, Russia and Lithuania, we have written up “A Critical Biography of Bronislaw Pilsudski”. We have also published three volumes of collected materials on B. Pilsudski.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
2008 年度	2,700,000	810,000	3,510,000
2009 年度	1,900,000	570,000	2,470,000
年度			
年度			
総計	8,000,000	2,400,000	10,400,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学

キーワード：ロシア東欧文学

1. 研究開始当初の背景

(1) 1981 年にブロニスワフ・ピウスツキの国際研究組織 ICRAIP (International Committee

for Restoration and Assessment of B. Pilsudski's Work and Life) が日本で立ち上げられた。1983 年に、ピウスツキがアイ

ヌ・フォークロアを採録した蠟管がポーランドから日本に送られ、北海道大学の工学者集団によって収録音声が生産された。

(2) 1985年に北海道大学で第一回国際ピウスツキ・シンポジウム、1991年にサハリンのユジノ・サハリンスクで第二回、1999年にはポーランドのクラクフとザコパネで第三回の国際シンポジウムが開催され、それぞれ報告集も刊行された。だが彼の生涯全体を描き出した評伝はまだ存在しなかった。

2. 研究の目的

(1) ピウスツキの生涯の各時期に特化した、包括的な諸伝記論文の執筆

(2) ピウスツキの全生涯を包摂する総合的な「年譜」の編集

3. 研究の方法

(1) ピウスツキ関係の資料と情報の収集を行った。

(2) 伝記論文執筆候補者をリストアップし、次いで確定した。

(3) ポーランド、ロシア、リトアニアを訪問し、かの地の研究者たちと面談して、本研究の意図を説明し、担当の時期を割り当てた。

(4) 2009年秋を原稿の締切とし、その後半年間編集作業を行った。

4. 研究成果

(1) 日本、ポーランド、ロシア、リトアニアの研究者計13人の共同執筆により、英語、ロシア語、ポーランド語の3カ国語から成る評伝“A Critical Biography of Bronisław Piłsudski”を完成した。上下2巻、計1,000頁の大著である。

(2) ピウスツキの詳しい年譜も両巻の巻末に載せた。

(3) 以下の3冊のピウスツキ資料集を刊行した。

Piłsudskiana de Sapporo. No. 3. Witold Kowalski. The Price of Conscience: A Commentary on Bronisław Piłsudski's *My*

Curriculum Vitae. Edited by Koichi Inoue and Kazuhiko Sawada. Saitama, Saitama University, 2009, vii+81 p.

Piłsudskiana de Sapporo. No. 5. Bronisław Piłsudski in Japan. Saitama, Saitama University, 2008, vii+204 p.

Piłsudskiana de Sapporo. No. 6. Bronisław Piłsudski's Letters to His Family (1887-1914) [Enlarged and Completed Edition]. Edited, compiled and annotated by Koichi Inoue and Agnieszka E. Marzec. Saitama, Saitama University, 2009, x+251 p.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計9件)

① 沢田和彦、「ブロニスワフ・ピウスツキの日本滞在」、『埼玉大学紀要(教養学部)』、査読無、第45巻第2号、埼玉大学教養学部、2010年、107-137頁

② 井上紘一、「日本の新聞が報じたピウスツキ関係記事(1903-1939)」、『研究論集』、査読無、91号: 267-280; 92号(印刷中)、関西外国語大学、2010年

③ Калзухико Савада, Бронислав Пилсудский на пароходе “Дакота” – От Нагасаки до Сиэтла. Известия Института наследия Бронислава Пилсудского. № 10, Южно-Сахалинск, Институт наследия Бронислава Пилсудского, 査読有, 2007, с. 78-87.

[学会発表] (計11件)

① 澤田和彦、「二葉亭四迷の新発見露文書簡」、『日本ロシア文学会』第59回定例総会・研究発表会、2009年10月24日、つくば大学

② 澤田和彦、「二葉亭四迷の新発見露文書簡」、『日本比較文学会』第47回東京大会、2009年10月17日、千葉大学

③ 澤田和彦、「ペテルブルグのプロニスワフ・ピウスツキと二葉亭四迷-ペテルブルグ調査旅行報告-」、第 66 回「来日ロシア人研究会」、2008 年 12 月 6 日、青山学院大学

④ 澤田和彦、「ウラジオストク、ユジュノ・サハリンスク旅行報告」、「来日ロシア人研究会」神戸合宿、2007 年 11 月 3 日、6 大学共同利用セミナー施設「ユニティー」

〔図書〕(計 8 件)

① Kazuhiko Sawada and Koichi Inoue (ed.), A Critical Biography of Bronislaw Pilsudski [Preprint]. 2 vols. Saitama, Saitama University, 2010, ii+8 illust.+490 p.; 8 illust.+498 p.

② 沢田和彦、「ブロニスワフ・ピウスツキとニコライ・マトヴェエフ」、『共同研究 ロシアと日本』第 8 集に所収、青山学院大学国際政治経済学部ポダルコ・ピョートル研究室、2010 年、213-237 頁

③ 井上紘一、「サハリンのウイлта (オロッコ) におけるトナカイ飼育の百年」、谷本一之・井上紘一編『「渡鴉のアーチ」(1903-2002) : ジェサップ北太平洋調査を追試検証する』、Pp. 289-313、国立民族学博物館 (2009)

④ Kazuhiko Sawada, Pilsudskiana de Sapporo. No. 5. Bronislaw Pilsudski in Japan. Saitama, Saitama University, 2008, vii+204 p.

⑤ 澤田和彦、平成 15-18 年度科学研究費補助金 (基盤研究 C) 研究成果報告書『幕末・明治・大正期の日本とロシアの文化交流に関する実証的研究』、埼玉大学教養学部、2007 年、iv+232 頁

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：

出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

澤田 和彦 (SAWADA KAZUHIKO)
埼玉大学・教養学部・教授
研究者番号：70162542

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

井上 紘一 (INOUE KOICHI)
関西外国語大学・国際言語学部・教授
研究者番号：10091414

